

202112.18 八代市厚生会館のホール再開を求める会 〈資料〉

◆時系列

1962(S37)	八代市厚生会館完成 設計:芦原義信建築設計事務所 音響:石井聖光	
1992(H2)	改修工事 芦原義信建築設計事務所	※1
2009(H21)	耐震工事 芦原建築設計事務所	
2016(H28).3	八代市厚生会館及び千丁・鏡文化センター運営方針策定	※2
4/16	熊本地震	
5/12	八代妙見祭保存振興会を初めとする関係4団体、八代民俗伝統芸能伝承館の整備について市議会へ陳情。→6 月定例会で採択される。	
6	八代市・経済文化交流部 八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)の施設整備を含む課題の検討を行う庁内検討会議を立ち上げる。12 月までに課長級の検討会議を1回、係長級の作業部会を3回開催(12 月市議会・宮村明彦経済文化交流部長答弁より)	
7/19	八代市厚生会館別館に仮入所していた経済文化交流部の商工政策課、観光振興課、国際港湾振興課、文化振興課の4 課が、7 月 19 日(火曜日)より、「TS ビル」に移転する。	
9/7	八代市議会・9月定例会 中山ゆふや議員より、熊本地震後、仮庁舎(経済交流部門)として、駐車場が不便な「民間貸しビル」を5 年間・6000 万円の賃料で借りた経緯について「 <u>駐車場も十分な厚生会館別館から無理に移転する必要があったのか</u> 」との指摘。	
11	「平成 28 年 熊本地震 八代市復旧・復興プラン」策定	※3
12/1	国重要無形民俗文化財に指定されている「八代妙見祭の神幸行列」を含む、日本の「山・鉾・屋台行事がユネスコ無形文化遺産に登録決定。	
12/5	八代市議会・12 月定例会 堀口晃議員が、伝承館建設地が厚生会館別館になったことについて、議会への報告なしに「 <u>庁内</u> 」のみで決めたとして、「 <u>議会軽視である</u> 」と指摘。 これに対して宮村明彦経済文化交流部長は「 <u>現時点では(伝承館建設)候補地を決定したものではない</u> 」と回答。また、伝承館建設による中心市街地のまちづくりに見込まれる効果として、庁内検討会議で、松浜軒や八代城跡、八代市立博物館など各文化施設の散策もあわせてできるよう検討し、クルーズ船入港時に観光ルートに組み込めるよう、 <u>大型バスが複数台駐車可能なスペースについて検討を進める、と回答している。</u>	※4
2018(H30)	2018 年度当初予算で「 <u>吊り天井改修設計業務委託</u> 」を予算計上しながら執行せず。	
2019(H31)2	「お祭りでんでん館」の基本設計完成	※6
6/1	厚生会館全館休館 HP などでの八代市の説明「伝承館(仮)建築工事に伴い、厚生会館は令和元年6 月 1 日から全館休館します。休館期間は約 2 年間を予定しています。」	
6/25	八代市議会・6 月定例会 橋本徳一郎議員が厚生会館について質問 ・厚生会館の現状について市民に説明を果たしていないこと ・機械棟を解体し、 <u>事実上使用不可となった上、機械棟回復のための予算がつけられていないこと</u> ・文化財の指定基準に十分な条件であること・位置づけをして生かすこと 山本哲也経済文化交流部長は 「今回のホール休館については、厚生会館別館と機械室の解体、工事中の騒音や振動、また、利用者の安全等を考慮して判断したもの」と答弁	
7	厚生会館別館解体(機械棟を解体→事実上「 <u>ホール使用が不可能</u> 」に)	
12/12	八代市議会・12 月定例会 野崎伸也議員から(新武道館建設要望について)「 <u>使用することすらできない厚生会館も考慮し、スポーツ大会以外でも集客できるような複合施設として、熊本県南総合体育館</u> というような名称でもですね、そのような名前で建設されることが望まれております」との発言	※7
12/13	八代市議会・12 月定例会 亀田英雄議員が「 <u>公共施設の方向性を『あり方検討会で検討する』のは『ファシリティ・マ</u>	

	ネジメント』政策と矛盾しないか。(機械棟を解体して)事実上使用不能にしておきながら『厚生会館の方向性はまだ決まっていない』と説明を繰り返す市への不信任」を指摘。 山本哲也経済文化交流部長は「厚生会館の今後についても、その中で検討していくこととしているため、 <u>現時点では方向性は決まっておりません。</u> 」と答弁	
11/28	『熊本に、日本初の官民連携による多機能アリーナをつくろう!』シンポジウム開催 主宰:熊本バスケットボール株式会社	
2020(R2) .2	「 <u>八代市文化ホール等あり方検討会</u> 」設置 「厚生会館ホール」を含めた市内のホールのあり方を検討 計5回(～令和3年1月22日)	※8
6/1~6/15	「 <u>文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート</u> 」実施。	※9
7	八代市が厚生会館の劣化度調査を開始(令和 3 年 1 月まで)	
2021(R3) .1.29	「八代市文化ホール等あり方検討会」が最終報告書※を市長に提出	※10
2.26	市の政策会議で「 <u>ホールを再開しない</u> 」ことを決定	
3.11	「経済企業委員会資料 八代市厚生会館の今後の方針について」	※11
5	「広報やつしろ」〈暮らしの情報〉欄に「 <u>総合的に検討した結果、ホール(劇場)としては再開しないこととしました。</u> (中略) なお、ホール部分以外の建物の利活用については、今後その可能性や方策の検討を行う予定です。また、本市の文化振興・発展の拠点として、ホール施設の必要性は高いことから将来への負担を勘案しながら利便性や効率性を考慮したホール施設の検討も併せて行っていくます。」と告知。	※12
6	お祭りでんでん館完成 設計:平田晃久建築設計事務所	※13
6/18	「成長戦略フォローアップ」閣議決定	※14
6	国際学術組織「ドコモモ」の日本支部が厚生会館を「 <u>日本におけるモダン・ムーブメントの建築</u> 」に認定と発表。	※15
8/23	熊本ヴォルターズ「アリーナシンポジウム」開催(関係者のみ)	
9	厚生会館のことを文化振興課に市民が問い合わせた際、「 <u>厚生会館のことはもう終わったことで、大ホールを含むアリーナ建設にむけて市民の機運を高めていただきたい</u> 」と職員が話す。	
9	熊本ヴォルターズ本拠地となる「熊本県南アリーナ請願署名」が八代で始まる →学校や地域回覧板など、広く展開。	※16
10	八代市「厚生会館の今度の方針」公表	※17
11	「広報やつしろ」の特集「この限界がキテル」で、厚生会館のところが空白として示される。	
11.6	「熊本県南アリーナ」請願署名が 48000 人に達したため、中村市長に署名を直接手渡す「決起集会」が新八代駅前の「ガメさん公園」にて行われる。	
12.8	八代市議会一般質問にて橋本隆一議員、橋本徳一郎議員が厚生会館について質問	※18
12.16	文化振興課が「ホール再開を求める会」に経緯等を説明	※19

※1 設計と同じ芦原事務所が改修・耐震を行ったことで、竣工当時のデザインを驚くほど残したことがのちの評価につながる。

※2「事業を実施することが目的にならないよう、入場者数や収益などの短期的な目標だけでなく、事業の波及効果や地域への影響、関係文化団体等の水準向上など、長期的な視点を加味した基準による適切な評価を積み上げていくとともに、そのフィードバックを怠らないことでより充実した事業につなげていくものである」「鑑賞の提供だけにとどまらず、教育や体験、普及や住民参加という形態で事業を実施している。これらの事業の成果は、具体的な数値として現れにくいものであるが、舞台芸術に対する理解の向上、地域文化の担い手の育成という観点から継続していく必要性の高いものである」

※3 P25(厚生会館、文化センターの復旧)本市芸術文化の拠点である厚生会館、文化センターの復旧に向けて、早急に点検調査を終え、必要に応じて改修工事を行い、平成 28 年度内に、県南の文化の殿堂として再生しました。※厚生会館は、6 月 13 日にホールを、7 月 25 日に会議室を供用開始。鏡文化センター及び千丁文化センターは 6 月 1 日に開館。
P39 指定文化財等を修復し、県南観光の拠点として観光客誘致につなげるほか、八代市の誇りある歴史・文化を次世代に継承します。また、被災した中心市街地の賑わいを取り戻し活性化させるために、八代城跡の整備を進めるとともに、「八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)」の整備について、厚生会館別館の改築と合わせて検討を行います。
P44 被災した中心市街地の賑わいを取り戻し活性化させるために、平成 29 年度策定予定の「八代城跡群保存活用計画」に石垣や北の丸跡の整備を盛り込むとともに、八代の民俗文化財の保存継承のための「八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)」の整備について、厚生会館別館の改築と合わせて検討を行います。
P44 ・厚生会館及び文化センターのホールの安全 安心で快適な整備 について、国・県と連携して取り組み、市民の心の復興につながる芸術・文化の復興の取組みを推進します。
P55 ①ユネスコ無形文化遺産登録を通した 復興概ね 4 年間の取り組み
・「妙見祭」をはじめ、八代の民俗文化財の保存継承や展示のための「八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)」の整備について、厚生会館別館の改

築と合わせて検討を行います。
「復興プラン」で市は「シビックプライド civic pride」にも言及。＝個人個人が都市（市区町村、商店街など）に抱く誇りや愛着のこと

※4 11月策定の「復興プラン」ではインバウンド対応のバス駐車場の記述は見られない、12月の議会答弁で「伝承館と合わせて観光バスの駐車場整備」というプランが登場する。

※5 市の説明（12月16日）によると、発注した設計業者の契約不履行によって予算は執行されず、再発注もされなかった。その代わりに、ハーモニーホールと八代公民館の天井・音響設備の改修が行われた。

※6 「でんでん館」設計時は、市はでんでん館のオープンに合わせて厚生会館を再開するとの方針を持っていた。
・「でんでん館」は厚生会館本館の存在が設計条件となっている。
・「芦原建築」である厚生会館の「外部空間」をリスペクトした造りとして、笠鉾が通れる高さの「生きた道」という空間を備えている。
・厚生会館用電源・空調設備の収容スペースはお祭りででんでん館の天井裏に確保されている（階段で上っていくことができる）。
・「新建築」2021年9月号「伝承館特集」には、「左 伝承ルームより道を見る。お祭りの練習の場、隣接の厚生会館のリハーサル、会議室としても使われる」との記述がある。

※7「厚生会館の方針は未定」と市が説明している中、「厚生会館は再開しない」という前提での質問。武道館やヴォルターズアリーナ等、体育施設の検討に「厚生会館の代替施設」としての「ホール」との複合施設建設論がよく出てくるが、体育施設のあり方は、現総合体育館はじめ各体育施設の問題であって、厚生会館ホールの代替施設として検討されることは、市民感覚として不自然。武道館やプールなど、八代の体育施設は課題を抱えているものが多く、体育施設は体育施設として、市民の要望を丁寧に反映して「使える」施設整備が必要という話。

※8 「あり方検討委員会」では、
・事業方針に基づいて短期的な採算性ではなく、長期的な文化波及効果を重んじた委員、
・人口減の時代にもっと過大な座席数のホールを抱えることへの懸念、
・評価方法や基準について
・運営方針のフィードバックがされておらず、飾り物に過ぎない
・人事育成・職員の数年おきの異動なんてとんでもない
・700席くらいに減ってもむしろ使いやすい
・満席にこだわることはない・ハードよりソフトを重視すべき
・ハ千代座のようにアンティークでいいから修理しながら使う
・近代建築、歴史的価値
・「友の会」など市民参加のホール活用・地域に愛されて、チームで盛り上げて延命して利用方法を考える
・八代城跡保存活用計画、八代市景観計画、八代市歴史文化基本構想、八代市景観重点地区候補、八代市歴史文化基本構想の歴史文化保存活用区域、歴史文化遺産を活用したまちづくり・・・等々を踏まえて、厚生会館の位置づけをしっかりと検討。「単に古い建物だからダメだというわけではない」・・・等々、厚生会館ホールを活用するための、真摯な議論が多く見られた議事と、委員会報告書の結論が乖離している。議事録を普通にまとめるとこの報告書とはならない。結論と一致する意見の委員は一人。「興行面でも採算性の高い十分な座席数を備えたホール施設が必要」との結論に導く手続きとして利用された検討委員会である。

※9 12万人の人口のうち、3000人に実施したアンケートで、1170人しか答えていない。このアンケートについては「あり方検討委員会」でも、「入場者数や収益などの短期的な指標だけでなく、長期的な評価を積み上げるべき」という市の運営方針に一言も触れずに、採算性や利便性の議論に誘導したアンケートの取り方に疑問を呈した委員がいた。
→（考察）恣意的、誘導的で結論ありきのアンケート結果。また、アンケートでは、駐車場の不足を指摘する声があった一方で「免許を返納したので行かなくなった」などの声もあったが拾い上げられていない。厚生会館単独の駐車スペースは多くないが、周辺は市の施設が有する駐車場の集中地帯であり、大型商業施設の駐車場と比較しても、駐車地点から徒歩でホールに着くまでの距離は十分許容できる範囲。また、「でんでん館」の「生きた道」が厚生会館の駐車場と博物館駐車場のショートカットとなり、博物館駐車場と容易に往来できるようになった。
高齢化社会であり、免許返納時代を迎えるこれからは、市中心部への自家用車以外の選択肢の増加や利便性の向上は必須であり、厚生会館単独の駐車場不足は大きな問題としないと考えられる。
厚生会館は、964席（立見を含めて1200名が定員）。設計者芦原義信が「地方都市・八代市民のコミュニティのあり方」を考慮して二階席を設けずワンフロアのコンパクトな作りになった。音響設計は名匠の石井聖光であり、建設当初の市の職員もウィーンまで視察に行っであのホールと席数を決定している。生の演奏が届く距離で興行きを計算し、興行主の乗り込み公演で収益を生むことが可能で、市民のコミュニティとして生きる席数とホールの大きさ。何でも新しいものを欲しがるのではなく、この歴史・価値を官民ともに理解して使いこなしてみせてこそ、八代の文化発信であり、教育であり、誇りとなり、「蘇った名ホール」として、現代的造りの他ホールとの差別化もできる。消防法で「定員」は通っていて、バリアフリーはゾーンを設けるなど、部分的に工夫できる余地が十分にある。

※10「著名な建築家により設計され近代建築としてその価値は高く、八代城跡をはじめ松濱軒、博物館などの歴史的周辺環境とも調和した施設であることから、今後も市民が集える場所として利活用を期待したい。しかし、その一方で建設から58年が経過し耐用年数も短いうえ、再開には多額の費用が見込まれる。さらに改修した場合でも座席数の減少や駐車場の不足、舞台設備等の使いづらさなど、様々な解消できない課題が残ることとなる。」
「しかしながら、本市の各ホール施設の現状は、近隣自治体のホール施設と比較しても人口規模に対する座席数が少ないことから興行面での採算性が低く、質の高い多種多様な鑑賞機会の提供が極めて少ない状況にあるとともに、今後施設の老朽化による管理運営経費はますます増大していくことが懸念される。市民が身近に質の高い文化芸術に触れ、感動し、創造性を育ていくためには、市民の発表の場としてのみならず、国内外の優れた舞台芸術公演の鑑賞ができるような、興行面でも採算性の高い十分な座席数を備えたホール施設が必要である。そのため、中長期的な視点をもって施設の整理統合など財政的効率化を図りつつ、本市の優れた交通アクセスを活かした交流人口の拡大や観光産業発展につながり、ひいては市民の夢、希望となるような、新たな県南の拠点ホール施設の整備につなげたい」
———ちなみにこの文言は「あり方検討会」のある委員の発言と全く同じである。———
委員：「人口密度の低い八代に県外からも人を呼び込めるように、新八代駅近くの土地に思い切ってホール施設を建てたらどうか。八代市より人口の少ない自治体でももっと大きいホールがある。1500人～小さくても1200人。複合施設で。」

※11 掲示

※12 「総合的に検討」の文言で「再開しないこととしました」と小さく掲載したことについて、市は「紙面の都合で秘書課からスペースを削られた」と説明している（2021.12）。「紙面の都合」は関係ない八代市のHPでも同じ説明である。

※13 「でんでん館」は、厚生会館ホールが存在することが設計条件となっており、「外部空間論」を引き継いで設計された。厚生会館～でんでん館～未来の森ミュージアムをつなぐ「生きた道」が、市民の日常生活や市民活動に活用されることを想定＝外部空間論。市のHP：工費約10億円～総工費は14億円とも。

※14 「全国のスタジアム・アリーナについて、多様な世代が集う交流拠点として、2017年から2025年までに20拠点を実現する」とされていることを踏まえ、スポーツ庁及び経済産業省は、「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定要綱（令和2年3月6日策定）」（以下「選定要綱」という。）に基づき、「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」を選定するための公募を開始します。

※15「DOCOMOMO（ドコモモ）」は世界の近代建築の評価を行う国際学術組織。1999～2021年で250件の選定をしている。
八代市厚生会館は、モダニズムの構造・表現と伝統的デザインの融合、八代城址との調和、外部空間論の出発点などが、特に優れた、20世紀を代表する、後世に伝えるべき建築物として選ばれた。熊本県内では6件目、県南では唯一の存在。尚、他は熊本県立美術館本館（2017）・熊本大学学生会館 東光会館（2020）など。

※16 商工会議所準備委員会規約には「県南振興策の一環として、『熊本ヴォルターズ』の本拠地となり、多くの目的に使用できるアリーナ建設を誘致する市当局への応援すること（原文ママ）」との記載あり。署名の趣意書には「八代厚生会館は文化事業としての役割を終えようとしています」と記載されている。

※17 「すべての機能を再開した場合、その費用は現段階で20億円が見込まれています。」「これらの課題、あり方検討委員会結果報告、市民アンケート結果を踏まえ、ホール（劇場）として再開しないものの、大規模な改修を必要としないスペースの活用可能性・方策について、民間提案制度なども含め、令和3年度中に検討を行う。」「本市の文化振興・発展の拠点として、十分な客席数や設備を備えたホール施設は重要性が高いことから（中略）ホール施設整備の検討も合わせて行っていく」

※18 ■厚生会館の現在の清掃状況
12月8日の市議会一般質問（橋本徳一郎議員）において、市側は「清掃につきましては、令和2年6月まで、週3回程度、業者による清掃、換気等を行っており、その後は職員が定期的に行っております」と答弁した。

※19 12月16日に「再開を求める会」が現在の清掃状況について質した際には「厚生会館の職員（職員は館長のみで、厚生会館には常駐していない）が、何かの用事でお祭りでんでん館に立ち寄った際、厚生会館の空気の入れ替えをしている。月に1～2回程度」と説明した。市議会で答弁した「定期的に」の実態は、この程度である。

◆考察

①「厚生会館」の採算性。

厚生会館が休館する直前の平成30年度の稼働状況を見ると、市内4ホールのうち最も稼働率が高かったのは桜十字ホール（ハーモニーホール）で78.5%、次いで厚生会館の37.9%と高い数字になっている。鏡文化センターは31%、八代市公民館（パトリア千丁）は16.1%だった。ただし桜十字ホールは、選挙関連など、いわゆる文化事業以外を多く含んでおり、文化事業での比較が必要。また、厚生会館休館前の時点で維持に必要な経費を比べると、厚生会館、鏡文化センター、パトリア千丁はほぼ同じとみられている。興行に関しても、関係者によれば、かつては厚生会館での事業は外部の興行主が行う文化事業と自主文化事業を組み合わせることで、黒字を保っていたという。例えば、ヒットの途上にあるタレント・歌手などを見極めるなど公演計画を工夫することで、8割の入場客数でも黒字にすることができたという。収容人数500人前後のホールでは難しいが、厚生会館ならば、自主文化事業の組み立て方次第で維持管理費を考慮しても十分に採算性があったといえる。

②八代市が作りたがっている「新たな拠点ホール」の危うさ

八代市が市外からの人を呼び込もうと整備を計画している「興行面でも採算性の高い十分な座席数を備えたホール施設」。直近の例として「熊本城ホール」が挙げられる。熊本城の真下、熊本市の交通の要所で巨大なMICE施設に存在するホールであるが、開業から稼働率が上がらず、熊本市が積み立ててきた文化基金二億円の大半を熊本城ホールへの補助に使ってしまい、年間3億円の税金が投入されている。また、複合施設の宿命として「振動」に悩まされるという欠陥も明らかになっている。
厚生会館の存続と、市が整備を検討している「十分な座席数を備えたホール」と、どちらが市民に負担とならないのか、官民で丁寧に議論するべきところである。

③高まる付加価値

2021年6月に国際評価機関「DOCOMOMO」により「後世に残すべき、20世紀を代表するモダニズム建築」として認定された八代市厚生会館。同世代の近代建築のほとんどが破壊されている現在、「近代建築のレジェンド」として、その価値は増すばかりである。再開後は、「蘇った名ホール」としての付加価値を生かした公演、集客、観光を可能にする。
城址～厚生会館～伝承館（コンクリートボックスに八代産の流通材を組んだ曲線の屋根で注目）～松濱軒～博物館（伊藤豊雄）、と400年間の歴史・文化を代表する建造物が一望できる景観は、それだけで貴重な教材であり、八代市民の「civic pride（市民が地域に抱く誇りや愛着）」、アイデンティティー。価値が増すばかりの「文化の拠点ホール」を浅はかに捨ててはならない。